

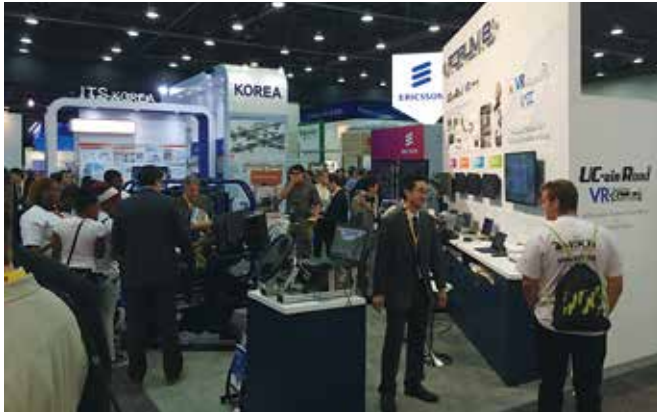
ITS世界会議 デトロイト 2014 レポート

<http://itsworldcongress.org/>



開催日: 2014年9月7日(日)~11日(木) 会場: アメリカ・デトロイト Cobo Center

ITSに特化した専門技術展として、今年で21回目となるITS世界会議が、アメリカ・デトロイト、Cobo Centerで開催されました。本年のテーマは“Reinventing Transportation in our Connected World”「つながる世界で、あらたな交通の創世へ」と題して、世界各国から多数の自動車メーカー、関連企業の参加がありました。参加企業の展示は2014年9月8日(月)から4日間となり、フォーラムエイトは昨年同様に出展し、数多くの方にご来場いただきました。第11回ITS世界会議愛知・名古屋2004以降、毎年出展を行っています。また、東京農業大学 山崎教授、株式会社ニュージェック、日本工営株式会社と共同で、OHPASS(Optimal Highway Path Automatic Search System:オーパス)に関する論文投稿・発表をテクニカルセッションにおいても実施しています。



■フォーラムエイトブースの様相

フォーラムエイトの最新ITSソリューションを一同に紹介

フォーラムエイトブースにおいては、「4K&VR」、「HILS&VR」、「HMD&VR」、「DS&VR」、「VR-Cloud@、UMDCコーナー」を設けて、UC-win/RoadおよびVR-Cloud@を用いた、最新ソリューションをハードウェアと合わせて展示しました。

「4K&VR」コーナーでは、UC-win/Roadと4K高精細モニターを接続したシミュレータを展示。通常のLCDモニターでのシステム構築に比較して、より高精細な空間再現が可能となります。弊社では、3D立体視を併用したシステム構築もご提案可能です。

「HILS&VR」コーナーでは、UC-win/Roadカスタマイズバージョンにより、リアルタイムハードウェア上で稼働する車両運動モデルとVRシミュレーションを同期したシステムを展示。最近では、HILSシステムを接続した実験環境の構築も数多く手がけており、UC-win/Roadの豊富な環境再現機能を車両開発において活用可能となっています。「HMD&VR」コーナーでは、UC-win/Road Oculus Riftプラグインを用いたシステムを展示。ヘッドマウントディスプレイに搭載のセンサーとVR空間内の視点情報と同期可能で、各種研究開発・実験において活用いただけます。AR技術を組み合わせたシステム提案も行っています。

「DS&VR」コーナーでは、UC-win/Road Ver.10 Driving Simとゲームコントローラを組み合わせた簡易型ドライビングシミュレータを紹介。パッケージ部分においては、Ver.9以降、シナリオ機能における他車両制御などのコマンドを大幅に拡張し、ACCの設定についても標準のパッケージ機能でサポートしています。

「VR-Cloud@、UMDCコーナー」においては、VR-Cloud@空間のタブレット端末によるドライビングシミュレーションを展示。弊社では、VR-Cloud@の動画配信に最適な高速度グラフィックサーバー、UMDC(ウルトラマイクロデータセンター@)も関連のソリューションとして展開しています。

UC-win/Road小型モーション付きシミュレータ2機種 SENSOドライブシミュレータを展示

今回は、UC-win/Roadによる小型モーション付きドライビングシミュレータ2機種を展示しています。これらのハードウェアは日本・海外での販売も予定しており、フォーラムエイト東京本社ショールームにて、近日中に展示を開始します。Simcraft社のAPEX 3GTは3軸モーションを搭載したシミュレータで、コンパクトながらダイナミックな挙動再現が可能です。モニターは、3枚の40インチLCDモニターにより、臨場感を再現しています。

BlueTiger社のFlight Simultorは2軸モーションを搭載したシミュレータで、こちらもコンパクトな筐体で、省電力かつパワフルなモーション挙動を実現しています。コントローラはフライトシミュレータ用のものが、設置されており、UC-win/Roadによるフライトシミュレータの構築が可能となっています。

UC-win/Road SENSOドライブシミュレータは、SENSO Wheelを用いたシステムで、APIを経由してステアリングトルクの制御が行え、各種車両システム開発に活用できます。



■Blue Tiger 2DOFモーションシミュレータ

ITS世界会議 東京 2013 レポート

<http://www.itsworldcongress.jp/japanese/>



開催日: 2013年10月14日(月)~18日(金) 展示: 15日(火)~18日(金) 一般公開日: 10月17日(木)~18日(金) 会場: 東京ビッグサイト

9年ぶりの日本開催に、目標を上回る65カ国から2万人超が参加 フォーラムエイトのDSが複数の展示ブースで活躍

ITSをめぐる最先端の技術や研究、世界の施策に触れた5日間

去る10月14日~18日の5日間にわたり、「第20回 ITS世界会議東京2013」が東京国際フォーラム(14日)および東京ビッグサイト(15日~18日)で開催されました。

会期中、首都圏に大きな被害を及ぼした台風26号が接近。荒天が懸念されたことから、16日は予定されていた午前中の会議セッションや展示会、ショーケースなどが中止になったほか、「体験しよう!」自動運転に向けて in お台場」デモやテクニカルビジットが終日中止になるという波乱がありました。

にもかかわらず、会議終了後にITS世界会議東京2013 日本組織委員会が公開した公式集計値によれば、会期を通じた同会議への参加は65カ国・地域から総数20,691人(会議登録の3,940人を含む)。プレス参加者の数も国内外から476人に上りました。

これは、当初目標値(参加国数60カ国以上、参加者数8,000人以上、会議登録者数4,000人)と比べ、会議登録者数がほぼ目標値通りだったほか、参加国数で8%超、参加者数にいたっては2.5倍を記録。閉会式(18日)の際、2013WC BOD議長の矢野厚氏がやや興奮気味に非公式の数値(その時点では10月17日までの総入場者数として16,900人)に触れたのが印象的でした。

初日(14日)は同会議のキックオフイベントとして、東京国際フォーラムで「開会式」および「ウエルカムレセプション」が開催されました。



▲「第20回 ITS世界会議東京2013」展示会場入口前(東京ビッグサイト)



▲「第20回 ITS世界会議東京2013」の開会式(10月14日、東京国際フォーラム)より(ITS世界会議東京2013組織委員会の渡邊浩之委員長)



▲「第20回 ITS世界会議東京2013」の開会式(10月18日、東京ビッグサイト)より(2013WCIPCの大口敬委員長がサマリーを発表)

翌15日からは会場を東京ビッグサイトに移し、「Open ITS to the Next: 次のステージに向けての目的と課題」と題する「プレナリーセッション(PL1)」を皮切りに、18日まで4日間にわたる会議(PL、エグゼクティブセッション、スペシャルインタレストセッションなど、約250セッションから構成)はスタート。併せて、展示会やショーケース(試乗を含むデモンストレーション)、そのほかさまざまなイベントが繰り広げられました。

同会議最終日(18日)は、予定された会議や展示会、各イベントの終了を受け、「ITSのさらに向こうにあるもの: 従来のアプローチから4つの“Open”へ」と題する最後のプレナリーセッション(PL3)を開催。続く「閉会式」を経て、次の開催地である米国デトロイトへとバトンが渡されました。

今回会議を通じ、「高度運転支援・自動運転」や「ITSビッグデータ」などのテーマが注目を集めました。また、個々のセッションではITSスポットサービスなどが国で展開中のサービスに対し、海外からの関心の高さも窺われました。

閉会式では、2013WC IPC委員長の大口敬氏が今回会議のサマリーとして、世界3種の今回会議に対するスナップショットを紹介。例えば、米州からは「ビッグデータが交通の未来を変えつつある」や「緊急事態への対応におけるITSの役割の増大」といった観点などとともに、「連結車両の導入および展開の拡大」あるいは「国際協力や国際基準への関心の増大」が挙げられました。また、欧州からは「まず展開ありき」で「統合されたサービスが出現しつつある」に加え、「自動および自律走行車両の研究が発達」し、「オープンデータやビッグデータに関する多数のイニシアティブ」がなされてきており、「スマートシティのコンセプトが普及しつつある」といった認識が示されました。さらに、アジア・太平洋地域からは「自動運転は弾みがつきつつある」あるいは「ビッグデータ活用の決め手はコラボレーション」という見方の方、「巨大都市や地域における交通問題」や「3種およびアジア・太平洋地域での協力の拡大、緊密化」への注目が浮かび上がりました。

フォーラムエイトの多彩なDS、海外のITS関係者からも注目

フォーラムエイトは「第20回 ITS世界会議東京2013」の展示会に、6Kマルチクラスター・デジタルサイネージによるドライビングシミュレーションをベースとした、

- 1) UC-win/Road Ver.9新機能/ADAS機能プレゼン・体験コーナー
- 2) ネットワーク・マルチドライバー同期運転機能によるF1レース体験コーナー
- 3) VR-Cloud®およびUC-win/Roadによるパーキングソリューション
- 4) UC-win/Road鉄道シミュレータ
- 5) トンネル管理者訓練システム「G'Val」
- 6) ウルトラマイクロデータセンター

などを出展しました。

国内外の来場者からとくに関心が多く寄せられたのは、UC-win/Road体験シミュレータでした。また、6Kマルチクラスター・デジタルサイネージによる体験コーナーは、常に盛況でした。

一方、「G'Val」を開発したフランスBMIA社のメンバーが当社ブースを訪れ、2015年に開催予定のITS世界会議ポルドーには同システムを出展したい意向が伝えられました。

そのほか、展示会場ではさまざまなシミュレータの利用が目立ちました。

とくに今回会議では、UC-win/Roadドライブ・シミュレータを導入されている出展者も多く、中日本高速道路株式会社のITS体験シミュレータ、警察庁および一般社団法人UTMS協会のDSSS体験シミュレータ、一般財団法人道路交通情報通信システムセンター(VICSセンター)のVICS体験シミュレータ、トヨタ自動車株式会社のCOOPERATIVE ITSドライブ・シミュレータ、アイシン精機株式会社のそれぞれ異なるコンセプトを体験できる3種類のドライブ・シミュレータ、富士通株式会社のドライバーサポートシステムのシミュレータなど、多岐にわたりました。それらは先進かつ多様なITSの機能を実現しており、その多くで来場者からの関心を集めている様子が窺われました。(執筆:池野隆)



▲ VICS 体験シミュレータ



▲ AISIN の 3 種類の DS ではそれぞれ異なるテーマを体験



▲トヨタ自動車の COOPERATIVE ITS ドライブシミュレータ



▲警察庁／一般社団法人 UTMS 協会の体験シミュレータ



▲国交省や各高速道路会社等が合同出展したブースの ITS 体験シミュレータ



▲富士通のドライバーサポートシステムのシミュレータ